

以上が、最近に発表された日本の科学者による、放射能の影響に対する見解のあらましである。日本の科学者は原水爆の唯一の被災者である日本国民を代表し、人類全体のために原水爆実験禁止と原子戦争防止に努力し、人道的な立場からの科学的なキャンペーンを展開している。このたび国連科学委員会が開かれるに当たって、世界各国の人々が、客観的な立場からなされているわれわれ日本の科学者の警告に耳をかたむけ、あなた方自身およびあなた方の子孫の幸福を守るため、原水爆実験の禁止の達成のために協力せられるよう切望してやまない。

(NHK海外ラジオ放送、一九五七年)

「拓洋」「さつま」の放射能汚染事件

海上保安庁の観測船「拓洋」と巡視船「さつま」がビキニの西方約一〇〇〇キロメートル付近を航行中につよい放射能を及び、乗組員に多数の白血球減少の要注意者(三七名)を出したことは、第二の第五福竜丸事件ともいふべき重大な事件である。「拓洋」「さつま」は国際地球観測年の観測任務をおびて、北赤道海流およびその反流の構造を調査するための、いわゆる「多船観測」(マルチプル・シップ・オブザーベーション)に参加するために、現地に出発したのである。この観測の目的は、数年前、アメリカの海洋学者により、北太平洋赤道海域の東部に発見された赤道潜流が、はたして、西部海域にも存在するかどうかをたし

かめようとしたもので、その観測結果は、いわば世界の学界の注視的であった。

これらの、国際協力のための平和的、学術的な任務をおびて、一路南下した両船は、七月十四日にいたって、濃厚な放射性気団と、汚染海水に遭遇したため、海上保安庁の指令によって、観測を放棄し、ラバウルに退避するのやむなきに至った。十四日午後四時の「拓洋」の位置は、北緯一三度三二分、東経一五三度三四分でエニウェトク環礁から六〇〇カイリ、米国原子力委員会の告示した危険水域の端から一八〇カイリ、「さつま」は、さらにその西方一五〇カイリを航行中であつた。両船とも危険水域の外にあつたことについては、議論の余地は全くない。

「拓洋」の測定によると、十四日午後八時のスコールの放射能は一リットルあたり毎分一〇万カウントにおよび、午後九時から一〇時にかけては、船上にそなえられたシンチレーション・カウンタは三万六〇〇〇から二万七〇〇〇のカウント数を示した。シンチレーション・カウンタは、船の甲板、海面および大気中から来るすべてのガンマ線を計測するものである。三万六〇〇〇というカウント数の放射能が、いかに大きいものであるかは、一九五四年の第一次俊鶴丸調査の最高値が、一〇〇〇カウントをこえなかつたことから、容易に推察されるであろう。俊鶴丸がいた海域の汚染は、海水一リットルあたり最高七〇〇〇カウントを示していた。これから見て「拓洋」が不幸にも、はなはだしく汚染された海域の中に、つ

つこんでいたことは明らかである。
われわれが、すでに警告したように、米国は、今回の一連の実験の中で、すでに一三回の空中爆発の他に、三回にわたる水中爆発の暴挙をあえてした。

ビキニ付近を流れる北赤道海流は、一ノット弱の速度で東から西に流れているから、五月二十九日に終った三回の水中考験の結果、濃厚に汚染された海水は、爆発点から西方七〇—八〇カイリの海域に到達しているはずであり、これは、あたかも「拓洋」等が航行していた地点に合致する。

一方氣象的にみると、ビキニ付近は貿易風帯の中にあり、海水と同じく、空気は西向きに流れる。米原子力委員会は、前述のように、すでに一三回の空中爆発実験を行なったが、そのうち六月二十九日の爆発は、人工爆発としては史上最大のものであり、三〇メガトンをこえるものと推察されている。「拓洋」が際会したものは、おそらく、七月十二日に行なわれた第一三回目の爆発による「死の灰」であろう。「死の灰」が風で運ばれる場合は一日にゆうに一〇〇〇キロは移動する。このようにして「拓洋」「さつま」が放射性降下物と海水との、上下両面からの放射能にさらされたのである。

米国は、ソ連の核兵器実験停止のよびかけにもかかわらず、また日本政府の再三の申し入れにもかかわらず、太平洋における実験を強行し、第五福竜丸事件につぐ、再度の被災事件をおこしたことは、まことに遺憾なことといわねばならぬ。「拓洋」「さつま」の乗組員の症状については、今後の経過を見なければわからないが、船上の放射能のつよさからみて、第五福竜丸の乗組員の場合のような重症でなかったことは、不幸中の幸いであったが、放射能症の経過は簡単に予断できないから、今後とも十分な注意をしてほしいものである。

さらに、ソ連の観測船ヴィチアージュ号は、ビキニの西三〇〇〇キロの地点でつよい放射能雨をうけて長崎に退避し、「拓洋」らと同じく国際地球観測年の観測を中止した。アメリカの核兵器実験が、国際協力

研究を再度にわたって妨害したことも、国際信義の上からみて許し難いことである。

また、今回の実験で水中爆発を行なったことは、公海をみだりに汚染したものととして、非難されねばならない。海洋の放射能汚染は、一九五四年のビキニ実験以来、いわゆる放射能マグロの問題として世人をさわがせたが、現在では、放射能はほとんど北太平洋の全域におよび、その中にすむいっさいの動植物は放射能の汚染からまぬがれることはできない。

おそらく、今回の実験による海洋の汚染は最大のものであり、われわれは、それが再び魚に重大な影響を及ぼすことをおそれていた。そのおそれは不幸にも現実となり、やがて放射能をもつ魚がボツボツ現われはじめるような事態になって来たことは、憂慮にたえないことである。

政府ではすべからず、これらの損害に対して米国に十分な補償を求めるほか、このさい断固たる態度でいっさいの核兵器実験の禁止を要求し、とくに、国際地球観測年という、高貴な国際協力事業を妨げたことについての責任を追及すべきではなからうか。国際地球観測年は二五年に一度の世界的大事業であり、一たびの欠測は永遠に償うことができないのである。また、一個の欠測は、他の多くの観測を無価値とする。米国は、しばしば、今回の実験ではキレイな爆弾を用いるという宣伝をしてきたが、多少とも放射能問題について不感症になりかかっていた日本国民は、この宣伝を全面的に信用はしなかったにせよ、今回のビキニ実験の影響を過小評価していたことはたしかである。

その証拠には、一九五四年、五六年の二回の実験のさいには、ビキニ水域の放射能調査の必要性が大きい世論となった。世論は政府を動かして、二次にわたる俊鶴丸調査が行なわれ、海洋の放射能汚染の実態

をつかんで、世界的に大きい貢献をしたにもかかわらず、今年政府はもとより、水産界も学界も、われ
関せずの態度をとったのは、いったいどういうわけであつたらうか。

このような国民的無関心が「拓洋」「さつま」事件をひきおこしたものともいえよう。「天災は忘れたこ
ろに来る」とは寺田寅彦の名言であるが、天災ならぬ放射能災は、いままでの経験からいっても、不測の
事態に発展するのがつねである。

政府は損害の補償交渉、核兵器実験禁止要求につよく一步をふみ出すとともに、太平洋の汚染の実態を
つかんで、今後こそなえるべきであらう。至急に調査船を組織し、現地に派遣すべきではなかるうか。

(一九五八年)

モスクワでの放射能問題シンポジウム

国際地球観測年特別委員会(CSAGI)放射能部会の会議で放射能問題は大きくとり上げられたが、残
念なことに、地元のソ連は核兵器実験の一時停止をうち出している(三月末グロムイコ外相声明)ためもあつ
て、この部会に参加しなかった。ところで日本から提出された気象庁の資料には、日本ではソ連の実験の
影響がもっとも強く現われると述べてあつたため、UPI、AP、ロイター等の通信社はえたりとばかり
に、日本の資料に関する記事を、それぞれ本社に送ろうとした。あわてたソ連政府当局は、一時、日本の

資料の記事の打電をさし止めたため、各通信社がそれに抗議を申し込むという事件がおきた。けっきょく、
ロイター電で日本の資料は外国に流れたらしく、あとでタス通信社の一記者は、私にロイターの記事を示
して、これは米英が日本の資料をつかつて、核実験をつづけるための根拠にしようとして、しているのではな
いかと詰め寄つた。

私は「とんでもない考えがいだ。われわれは数年来、ソ連にも、米英にも、核兵器実験の禁止を訴え
てきた。幸いソ連が今春、実験停止を声明したことを非常に喜び、米英がそれにならうことを期待してい
る。気象庁の資料は、過去の科学的な記録としては一応正しい。われわれは、こんどの国際地球観測年特
別委員会で、ソ連の核実験の影響に限らず、ビキニ実験の影響がいかに北太平洋を汚染したか、というこ
とについても発表している。われわれの願いは、すべての国がすみやかに核兵器を禁止することであつて、
この問題に関する限り、いずれの国にも味方することはあり得ない」と語つた。

するとさらに、それでは「今年のビキニ実験のために、ヴィチアージ号(ソ連の観測船)が観測を断念す
るのやむなきに至り、また、日本の「拓洋」と「さつま」が同じ憂き目にあつたことをどう思うか」と聞
いてきた。私は「その問題については、米の実験が再度にわたり、国際地球観測年事業を妨害したことを
科学者として許せないむねを、モスクワにくる前、日本の新聞紙上で論評したばかりだ」と答えた。

この他に、イギリスのウィンズゲールにおける原子力工場の事故による放射能灰の大規模な散布の結果
が、シエパード博士から発表された。これによると、事故のおきた一九五七年十月十日ののち、放射能灰
は前線によって運ばれ、イギリスの南半分、ヨウ素一三一として、最高一立方メートルについて一〇